

横浜国立大学工学部物質工学科工学系同窓会

【目次】

- ❖ 上ノ山会長 御挨拶
- ❖ 「水素エネルギーの大規模貯蔵輸送技術」の紹介
- ❖ 活動報告
- ❖ 2012年度の会計報告
- ❖ 張錦龍氏来学



上ノ山会長 御挨拶

横浜三工会が平成19年の秋に発足し、早や7年の月日が経ちました。その間、本学ならびに各同窓会を取り巻く状況には、風雲急を告げるものがあります。最も大きなことは、HCD 当日の朝にお披露目されることになっていきます校友会の設立です。富丘会、有松会、工学部同窓会連合からなる卒業生・修了生を中心とした集団、本学現旧教職員団さらに現役学生諸子の3グループを柱とし、これらを全て束ねる形で新設されます。既存の同窓会とのミッションの棲み分けが問われる処ですが、本学 YNU、とりわけ現役学生の皆さんを物心両面にわたりサポートする基幹組織を目指しているものと当方は理解しております。入学時に終身会員分の会費を徴収することになっていますが、このことは一部同窓会の例外を除いてこれまでにない画期的なことでしょう。

工学部同窓会連合もまたその変容を迫られています。4年前に設置された理工学部最高学年生が来春、卒業することになるからです。理工学部同窓会（通称、名教自然会）を、設置することは、関連の8同窓会で合意形成されていますが、会費徴収を如何にするかを巡っては、ギリギリの調整が続けられています。本ニュースレターが発行されるときには、決着されていることを願って止まないのですが・・・。

さらに本会は、国大化学会との関係をどのようにするのか、正念場と云える局面かも知れません。春季に化学・生命系学科同窓会（略称、学命会）の設置を提案致しましたが、正直に申し上げて、足踏みの状態にあります。

このような状況を鑑みるときに、本学名誉教授の宮脇 昭先生の「共生」と「潜在自然植生」の教えを思い起こします。「共生」では、「異なる種が、共に在るためには、それぞれが互いに1歩ずつ譲歩することがその裏でなされている。」ということを学びました。何か新しい器を立ち上げるときには、それに関わる個々の組織が、既得の権益や現行の成果を墨守することに囚われては上手く行かないのではないのでしょうか？互いに1歩引いて全体で10歩前進する精神が肝要と考えます。もう一つの「潜在自然植生」ですが、宮脇先生はこの学理を本学キャンパスを使って20年も30年も掛けて、実証されました。変革・改革と急ぐあまり、歪みを残したまま無理矢理なことをなしても、早晩、綻びが出るものと考えます。歩きながら考え、走り出した余り考えが甘くなりがちなのが常態化しているような気がしてなりません。ときには暫らく佇んで考えを巡らすことも必要ではないのでしょうか？

とまれ本横浜三工会も本学の一層の発展に寄与できるよう、変身を遂げて行きたいと切に念じます。

横浜三工会会長 上ノ山 周

ホームカミングディ 工学研究院講演会

「水素エネルギーの大規模貯蔵輸送技術」千代田化工建設株式会社 技師長 岡田佳巳氏

1984年に化学工学科（大矢研）を卒業した後、1986年にエネルギー材料専攻（高橋研）を修了して、千代田化工建設に入社して以来、研究所にて技術開発に従事して参りました。2002年より水素エネルギーの大規模貯蔵輸送を実現する有機ケミカルハイドライド法脱水素触媒の開発を開始、2013年5月にパイロットプラントによる技術実証に成功し、SPERA 水素システムと命名されました。SPERAとはラテン語で“希望”を意味する言葉です。また、本年4月に震災後初めてとなるエネルギー基本計画が経済産業省より発表され、水素エネルギーは電気と並ぶ重要な二次エネルギーとして位置づけられ、6月にはロードマップも発行されました。ここでは、エネファームの普及促進、世界最速の燃料電池自動車（FCV）と水素ステーションの整備、及び水素燃料による火力発電の実現と水素エネルギーの海外からの輸入などが盛り込まれており、水素エネルギー利用の実用化と普及が国策として進められることとなりました。弊社では川崎市の全面的なご協力のもと、臨海工



業地帯を舞台に水素を大規模輸入し、東京オリンピックで利用するプロジェクトの検討を行っています。また、本年6月に韓国で開催された第20回世界水素会議では、最高の賞である Jules Verne Award を千代田化工建設が受賞することができました。ホームカミングディの講演では、SPERA 水素システム技術の概要、将来の水素利用の展望などをご紹介しますので、ご来聴頂けましたら幸いです。

2013 年度横浜三工会総会・特別講演会・懇親会を開催

横浜三工会総会・特別講演会・懇親会を2013年10月26日(土)に開催致しました。総会において、2012年度の活動報告、会計報告が承認されるとともに、物質工学科物質のシステムとデザインコース4年生10名、バイオコース4名を対象として、上ノ山周会長から学業優秀者の表彰として横浜三工会学生奨励賞を14名に授与致しました。また、総会では福田淳二准教授から特別講演「未来の医療を切り拓く再生医療と細胞組織工学の今」を頂き、その後、懇親会を第8回ホームカミングディとジョイントする形で実施しました。



2012 年度会計報告

2013年度の横浜三工会総会で承認されました2012年4月1日～2013年3月31日までの会計を以下に報告させていただきます。

収入		支出	
平成22年度繰越金	2,221,050	工学部同窓会連合年会費	80,000
卒業生・修了生年会費(H24年3月)	202,500	平成24年度総会費用(資料発送など)	344,700
郵便振込(年会費、寄付金など)	427,830	学生表彰(優秀賞)	69,289
その他(利息)	636		
		小計	493,989
		振替口座残高	0
		普通貯金残高	2,141,592
		手元現金残高	216,435
		残高小計	2,358,027
合計	¥2,852,016	合計	¥2,852,016

張錦龍氏来学と「師恩永在 教澤長滋」の贈呈式

2013年9月12日に化学工学科OBの張錦龍氏が来学され、掛け軸「師恩永在 教澤長滋」の贈呈式がありました。張氏は1968年化学工学科卒業(桐生研)、1970年大学院修士課程修了後、台湾プラスチック社に入社しました。現在は昇陽光電科技(Solartech Energy Corp.)や新能光電科技(Sunshine PV Corp)などのグループ企業の会長として活躍されています。「師恩永在 教澤長滋」は、「師の恩は長くあり、(その)ゆたかなる教えは、(我々弟子を)長くうるおす」を意味すること、張氏のご活躍を慶ぶとともに当教室にとってこの上ない贈り物となりました。



横浜三工会事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5

横浜国立大学理工学部化学・生命系学科化学応用EP内

TEL : 045-339-3991, FAX : 045-339-4012, E-mail : sanko@ml.ynu.ac.jp

<http://www.sankou-kai.ynu.ac.jp/>